

平成27年度重点プロジェクト事業（海外派遣研究員旅費）報告

20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS Malmo 2015)における研究発表

森 寿仁*

はじめに

今回、平成27年6月24日～平成27年6月27日の日程で、スウェーデンのマルメにて開催された20th Annual Congress of the European College of Sport Science（第20回ヨーロッパスポーツ科学学会：以下、ECSS）に参加し、これまで我々が行ってきた研究成果の一部を発表する機会を頂いたので、学会大会の様子および私の発表内容についてここに報告する。



演題発表の様子

ECSS (European College of Sport Science) について

ECSSは体力・スポーツ科学分野の国際協力を推進するとともに研究者間の交流を目的とした国際組織である。当学会は約2万名以上の会員を擁し、年に1度の学会大会には、ヨーロッパを中心とした学会であるにも関わらず、アメリカ、アジア、オセアニアなど世界中から体力・スポーツ科学領域の研究者が集まり、研究成果の発表および討論が盛んに行われている。今回参加した第20回ヨーロッパスポーツ科学学会においても、70か国から2400名余りの参加があり、学会会場は、スポーツ科学を研究領域とする研究者や学生をはじめ、運動指導および実践者等の参加者で非常に盛況であった。

一般発表の合間には「Plenary session」, 「Invited presentation」など、著名な研究者のレクチャーやシンポジウムなどの講演があり、朝8:30～夕方17:00まで様々な内容の発表が絶え間なく行われていた。いずれの内容も非常に興味深く、今後の研究において有益なものであると感じた。

研究発表について

学会大会2日目のMini oral session（発表・質疑応答ともに2分間）にて「Characteristics of runners walking and/or stopping in the second half of marathon races」というタイトルで発表した。その内容は「市民マラソン大会において、レース中に歩いたり立ち止まったりするランナーの特徴」について、脚のきつさの変化、レース中のペースの変化、練習量などとの関連から検討したものである。

発表に関しては事前にしっかりと練習を行っていたが、緊張で言葉が詰まり、練習通りうまく話すことができなかった。また不運なことに、発表時間になっても座長が会場に来なかったため、質疑応答の時間をもらうことができなかった。これらのことから、私自身の研究発表に関しては悔いが残る結果となった。

しかしその他、特にリスニングに関しては、昨年本学会に参加した時以上に英語を聞くことができるようになっており、世界の様々な研究者の研

* 鹿屋体育大学 大学院体育学研究科 博士後期課程3年

究発表について多くのことを学ぶことができた。
さらに、演題発表では質問を頂くことはできな
かったが、私の現在行っている研究と関連する演
題が発表されていたこともあり、私の研究の国際
的な位置づけを確認することができた。

おわりに

今回の発表を通して、自身の研究内容の位置づ
けや研究データの有用性を再確認することがで
き、非常に有意義な時間を過ごすことができた。
また、国際学会が2回目ということもあり、前回
よりは落ち着いて学会に参加することができた。

とはいえ、英語能力の向上はまだまだ必要であ
り、今後さらに向上を図る必要があると感じた。
今後も積極的に国際学会に参加し、自身の研究内
容を深めるとともに、語学力についてもより一層
努力していきたいと考えている。

最後に本学会大会への参加・発表にご理解とご
支援いただいたことに、感謝の意を表します。